

京都府内の有機栽培の酒米を利用した 日本酒の魅力発信と認知度向上

【龍谷大学】田中優衣・松井隆行 指導責任者：眞鍋邦大

01 研究に至った背景

龍谷大学深草キャンパスと同じ伏見にある、京都を代表する地酒メーカー・玉乃光酒造株式会社とはゼミ活動において関係があった。2022年の秋には大学内での講演、昨年1月には大学生への日本酒の醸造体験の提供、4月はインバウンド向けの日本酒販売等、何度も連携を重ねてきた。これらのつながりをさらに強化することで、京都府内で有機栽培された酒米で醸造された京都純米酒の魅力発信と認知度向上を目指すことに。



醸造体験



日本酒販売

02 活動内容

フィールドワーク①

日 付：9月18日

場 所：八木商店@亀岡

活動内容：京都有機純米酒の原料である酒米「祝」の栽培についての現状を知り、深く理解するために亀岡にある八木商店へ訪問。ゼミのフィールドワークとして実施した。20名が参加し、多くの質問が飛び交った。京都でしかつくられない「祝」という酒米の特徴、そしてさらにその酒米を有機栽培で作ることの困難さを知った。「祝」を有機栽培で作っているのは八木商店のみと考えられており、有機JAS認証（現在は転換期間中）を得れば、より魅力的な日本酒となるだろう。



TERRA MADRE JAPAN 2023

日 付：9月30日

場 所：宮城県富谷市「とみやど」

活動内容：京都府内の有機栽培の酒米を使った日本酒の魅力発信と認知度の向上のため、宮城県で開催された日本版TERRA MADREの第1回に参加。日本酒の試飲販売とともに、自作のポップで発信活動を行った。2種類の玉乃光酒造の日本酒を合計46杯販売。府外に出ることで、多くの人に日本酒の魅力を届けることができたとともに、実施者自身も改めて日本酒の魅力を知る機会となった。また、他地域の人の関わるきっかけを得たことで、「京都」というまちの力を感じた。



フィールドワーク②

日 付：10月18日

場 所：八木商店@亀岡

活動内容：認知度向上や販路拡大において重要となる生産の裏側にあるストーリーを学ぶことを目的として再びフィールドワークを八木商店にて実施。酒米が収穫を迎えるタイミングで、収穫作業の見学を行った。今回のフィールドワークは2名で参加。1回目と比較して、八木さんとの距離が近く深いコミュニケーションをとることができた。収穫作業の工程や、農業を始めたきっかけなど様々な話を伺った。有機純米酒のストーリーが見えたことで、有機純米酒への解像度が高まったとともに、作り手の顔を知ることの大切さを体感した。



サケモノガタリ

日 付：10月28日

場 所：てんしば

活動内容：京都の日本酒の立ち位置を客観的に知るべく、「サケモノガタリ」という若者のアルコール離れの現状回復を目的とした関西の酒イベントの出店の手伝いを行った。2種類の日本酒を販売し、試飲を255杯、ボトルを8本販売した。関西の酒が集まっているイベントであったことが起因なのか、「京都の日本酒」というワードは宮城での出店に比べると、効果の高いものではなかったように見受けられた。出店地域によってどのようなポイントをアピールするかは異なってくることを発見した。



活動報告会

日 付：1月9日

場 所：QUESTION

活動内容：これまでに取り組んできた活動の報告のため自主企画イベントを実施。同じゼミ生との共同企画として3つの活動記録の報告を行った。25名の参加者の方々に有機純米酒の試飲をしていただいた。学生主体の企画ということもあり、参加者の8割以上が大学生であった。このことから、若い世代の方々に日本酒を知ってもらい、興味を持ってもらう機会になったといえる。



03 今後の展望

玉乃光酒造や八木商店との連携により、実施者自身も京都純米酒の魅力を度々認識する取り組みとなった。また、京都府内に限らず、宮城県や大阪府での活動によって「京都」を客観視することもできたと考えている。今年度も引き続き玉乃光酒造と連携していく予定であり、直近では、3月2日に行われる「玉乃光酒造×松山酒造 合同蔵開き」でも運営のサポート・模擬店の出店者として関わる予定だ。